

(第3章) 舞鶴市公式訪問団がウズベキスタンを訪問

舞鶴市代表団がウズベキスタンを訪問

平成29年11月には、多々見舞鶴市長を団長、山口副市長を副団長とする6名の代表団と5名の引揚調査メンバーがウズベキスタンを訪問しました。

訪問中には、主目的である政府機関との覚書の取り交わしをはじめ、ナヴォイ劇場や日本人墓地、ジャリル・スルタノフ氏が運営する日本人抑留者資料の訪問、アルマザール高校との交流など、スポーツ・文化・教育・経済部門の関係施設を訪問しました。また、引揚調査メンバーは、引揚記念館の展示の充実と学術的・客観的な調査を通じて過去の歴史の検証を行うため、日本人抑留関連施設を訪問しました。

【代表団訪問先】

○ナヴォイ劇場

日本人抑留者(タシケント第四ラーゲル会 457名)が建設に関わったナヴォイ劇場を視察。ムラトフ館長から、日本人の作業ぶりや、こけら落としに日本人がオペラを鑑賞したこと、一昨年訪問した安倍首相の訪問時のエピソードなどを聞き取りました。



○ヤッカサライ日本人墓地

ウズベキスタンに13か所ある日本人墓地のうち、タシケントで亡くなった79名の日本人が眠っているヤッカサライ日本人墓地。墓地は、区の職員によって毎日きれいに掃き清められていました。

多々見市長は、献花と焼香を行ったあと、タシケント市市民サービス局長のラスーロフ氏に対し、感謝の念を述べました。同氏は平成20年に、ウ国政府や日本国内の日ウズ協会と連携して日本人墓地整備および維持管理に熱心に取り組み、長年にわたる功績が認められ、日本政府から旭日双光章を受けておられます。



○日本人抑留者資料館(タシケント市ヤッカサライ区)

スルタノフ館長とは交流のきっかけとなった来日以来、2年ぶりの再会となりました。館内では、抑留者が自作したはさみやスプーン、現地の女性のために作ったゆりかごなど、館内の展示品の説明を受けました。

多々見市長から、抑留者の功績をキンモクセイの香りになぞらえたドキュメンタリー映画にちなんで、日星高校が製作したキンモクセイのモイストポプリと、アクセサリー、また、ウズベキスタンを題材にしたマンガ「乙嫁語り」(9冊)をスルタノフ館長と、孫娘リソラットさんに贈呈しました。



○国立東洋学大学付属アルマザール高校(日本語科)



平成28年1月の来鶴時に日星高校生と交流し、それ以降日星高校との交流を進めている国立東洋学大学付属アルマザール高校を訪問しました。(スルタノフ館長の孫娘リソラットさんが在籍。)

会場では、100人を超える生徒たちから両国の国旗を振って歓迎され、ダンスや作文の披露、書道パフォーマンス、会場全員が日本語で「幸せなら手をたたこう」を歌うなど、交流会が行われました。

その後、多々見市長が、日星高校生の今後の交流を願うメッセージを朗読し、友好の証としてキンモクセイの花を樹脂で固めたアクセサリー(日星高校生作製)を贈呈しました。



○オリンピック委員会（覚書取り交わし）



2020 東京五輪のレスリング・柔道の事前合宿実施に関する覚書を取り交わしました。取り交わし式では、オリンピック委員会として、会長で副首相のスルタノフ氏が、また、体育スポーツ省からは、8月に来鶴されたクルバノフ大臣が出席。それぞれ多々見市長と覚書に署名をしました。

スルタノフ委員長は、「スポーツの発展のため五輪の準備を進めている。ホストタウンの舞鶴市に感謝する」、多々見市長は、「事前合宿がしっかり行えるよう環境を整える。スポーツのほか、文化など様々な交流を進めたい」と述べました。



○ヤッカサライ区長との懇談

ヤッカサライ区は、タシケントにある11の区のひとつで、面積14.6平方キロ、人口は12万人の区。

マハメトフ区長からは、区内には、日本人墓地（ヤッカサライ市民墓地の一角）や、ジャリル・スルタノフ氏が運営する日本人抑留者資料館があること、また、産業の概要について説明がありました。

説明後には多々見市長から、2日前に日本人墓地を訪れた際に非常に綺麗にされていたことに対する感謝の言葉を伝えました。



○JICA（ウズベキスタン日本センター）

ウズベキスタン日本センター [UJC] は、両国政府により、ウ国対外貿易省と JICA（国際協力機構）の共同プロジェクトとして発足した組織です。そのため、日本側とウズベク側からそれぞれ所長を擁立し、共同で運営しており、ビジネス人材の育成や日本語教育、日本文化紹介の拠点となっています。



JICAの伏見所長や、UJCの高田所長から、施設概要の説明を受けたあと、ウズベキスタンの子どもたちが、オープンサロンで花札など日本文化に触れている様子や、日本の書籍などが並ぶ施設内の視察を行いました。



【引揚調査メンバー】

○アングレン市内の日本人抑留関連施設の視察

日本人抑留者がアングレン市内のジギリスタン集落に建設したコミュニティセンターを視察しました。



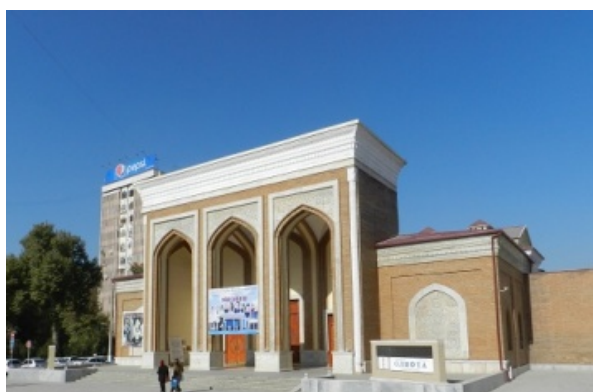
○国立歴史博物館（対応：イスマイノワ館長）

中央アジアで最も古い歴史博物館。1876 年開館。古代から近世までの歴史と独立後の歴史が展示されていました。



○タシケント市内の日本人抑留関連施設の視察

タシケント市内には日本人抑留者の収容所は民家として残っている場所もあります。また、日本人抑留者が建設したナヴォイ劇場の他にムキミ劇場も日本人抑留者が建設に関わった建物として現在も残っています。



スポーツの枠にとどまらない交流を

舞鶴市では、平成 29 年 7 月からウズベキスタンからの国際交流員を受け入れ、オリンピック合宿に関する調整や市内でのウズベキスタン文化の紹介などを担当していただき、大使館や日本ウズベキスタン協会の協力を得ながら引揚の史実や、シルクロード文化などをベースとしたウズベキスタンとの文化交流、経済交流やスポーツでの交流を進め、「海外引揚から始まった縁」を「東京オリンピックをきっかけとしたあらたな縁」として後世に引き継いでいきたいと考えています。